

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700207		
法人名	株光華の社		
事業所名	えくせれんと鶴舞		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番地10		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成30年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点としましては会社の理念でもある「マナー・接遇」「美味しい食事の提供」「退屈させない日々の介護」を目標に取り組んでおります。「マナー・接遇」に関しては同系列施設、接遇・マナー委員からの研修を行い「美味しい食事の提供」につきましては自施設で全ての調理を行い、エクセレントグループ全体で給食検討会なども実施しております。体調に合わせての調理なども随時提供できるよう心がけております。「退屈させない日々の介護」につきましては地域や学生ボランティアの方々の協力もあり様々な教室や行事を開催させて頂いております。ご入居者様やその他関係者の皆様にとって居心地の良い施設を目指し、ご家族様や地域の皆様との交流機会も出来るだけ多く設けさせて頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設一年余り介護理念の三要素「マナー、接遇」「美味しい食事の提供」「退屈させない日々の介護」を目標に取り組み、利用者に喜んで貰えるように食事に力を入れて全て手作りで家庭的なメニューを提供出来るように日々努力している。法人全体でメニューを競う大会が三月に開催予定となっている為当日に向けて奮闘している。退屈させない日々についても職員はいつも利用者に寄り添い寂しくないように気にかけて支えあっている。職員全員各委員会に入り、レクや食事等で利用者の喜ぶ顔が見たいと楽しく話す職員の様子が訪問日に見受けられた。まだ開設一年ということではやらなければならないと思う事は多いが、まずは小中学校の職場体験の受け入れや保育園児との交流、地域の行事への参加等少しずつ交流の輪を広げていきたくと職員の謙虚な中にも意欲的な姿勢が今後のホームの更なる広がりへと期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を毎日の朝礼で唱和を行い。施設理念を事務所前に掲示し常に確認しながら実践に繋がれるように心がけている。年度末には理念の見直しを全体会議で行い、管理者と職員が共有できるようにしている。	介護理念を毎日の朝礼で唱和することで意識づけを図り、毎月の会議の際にも理念について話し合い、出された意見をまとめて共有し、介護理念の三要素を目標にして実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の消防団から職員1名入職。地域の防火活動など情報が入る。今後は消防団の活動にも参加する計画を行う。その他、地域ボランティアの方に施設行事の参加をして頂いている。	散歩の際は地域の人と挨拶を交わしホームを認識して貰っている。ホームの夏祭りへの参加を呼び掛けたり、地域行事の参加の誘いも受けている。ボランティアでは銭太鼓、音楽療法、大正琴、回想法等多く受け入れ交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会や地域交流会等の際には個別で時間を設けるなどし介護についての相談なども行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会においては事業所の利用状況や行事など、各フロア担当の物から報告をさせて頂いております。その他その時に応じた情報(感染予防・脱水予防など)も行えるようにしています。会議後には個別相談の時間を設けております。	二カ月毎に年六回民生委員、いきいき支援センター職員、協力医、ホーム職員等の参加でホームの活動報告を行い、各議題について意見や助言を受けている。地域の情報を得る機会であり、今後の地域との協力体制の構築にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昭和区の担当課とは日常的に報告をしている。区が主催している事業所連絡会や地域ケア会議に定期的に参加できるように今後は計画を行う。	役所には分からない事が有ると電話で問い合わせたり、書類関係で出向く際に相談するなど協力関係を築くように努めている。今後は区主催の事業所連絡会に参加予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアルを設けており定期的に研修を行い正しい理解を全職員が行えるよう指導している。	玄関、エレベーターは安全の為家族に同意を得て施錠されている。職員にとって何が身体拘束になるのか理解してもらえるように、日々のケアの中で指導したり会議の際に話し合ったり、年間の勉強会に組み込んで正しい理解が得られるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示及び職員がいつでも見れる場所に保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示し職員の意識付けを行っている。その他の制度については研修などをする機会も設けているがまだまだ理解が足りないと感じており今後の課題でもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際には契約書・重要事項説明書・同意書などご本人様やご家族様に説明し、ご理解・ご納得いただいた上で、ご署名・ご捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者の方々からより多く意見がいただける様に投書箱を玄関に設置させて頂いている。その他、アンケートなども行い、意見などがあつた場合は迅速に対応し運営推進会などでも報告をしている。	利用者の意見は日々の関わりの中から聞き出している。家族からは面会時にコミュニケーションを図り意見や苦情を聞き、申し送りノートやクレーム専用紙にまとめてリーダーから家族に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会・フロアミーティング・研修会・各委員会を毎月開催し、職員の意見や提案を聴ける様にしている。半月に1回は職員全員と個別面談を行っている。	会議や日常の業務時等で職員の意見や提案が出され、話し合っって簡単な要望や提案は早急にホームの運営に反映されている。又半年に一回個人面談もあり、今後アンケート調査も予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価シートを個々に作成してもらいそれに応じて半年に1回面談し、個々の努力や目標達成度、その他相談や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別目標シートなどを設け管理者がその都度、指導や相談が出来る様にし個人のスキルアップを目指している。その他施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同法人による情報収集しか行っていない為、今後は事業所連絡会の参加にも積極的にも参加をする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と少しでもお話し(挨拶など)する時や声を掛けてくださった時には必ず立ち止まり目線を合わせコミュニケーションをとる様に指導しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず施設の見学にお越し頂き、全てのフロアを案内しその後施設の詳細な対応などを説明している。導入後も不安なことなどがあればご家族の希望により個別相談時間を設けさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の意向や今後そのような生活を望んでおられるのか、今何にお困りなのかをしっかりと伺い、それに応じて自施設が適しているのかどうかを検討している。必要に応じて他の施設や事業、制度などの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の能力や生活に応じ、施設での役割をしっかりと持ていただける様に支援する事で、過剰な介護を防ぎ職員が寄り添えるようになるのではと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には出来るだけご本人様の状況を報告させて頂いたり、相談させて頂き意見なども積極的にうかがえるようにしている。ご家族様でないと出来ない役割をしっかりと理解いただけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人その他関係者の方々に気軽にいつでも来ていただける様に声を掛けさせて頂いています。その他地域のお祭りや行事、昔なつかしい場所等出来るだけ言っていたる様に配慮しています。	友人や親戚の人とはリビングや喫茶店で話したり、手紙を書いて職員と一緒に投函するなど、今迄の付き合いが継続出来るように支援している。家族の協力を得て自宅、墓参り、馴染みの美容院、外食に出掛けるなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。又入居後近所の喫茶店が馴染みとなった人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様それぞれフロアでの役割を持っておられるよう職員が介入しなくても支え合っておられる場面を多々拝見させて頂いております。しかし、認知症状によりどうしても介入しないといけない場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も連絡(電話や手紙など)を取り、何かあれば気軽に相談頂ける様、お話しさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各フロアー会議の際に個人のケースカンファレンスを行い、今のご本に様に必要な支援や希望を職員が確認できるように心がけている。	職員は日頃より声掛けを頻繁に行い、表情やしぐさ、健康状態からその時々思いや意向を推し図っている。気分が落ち込む時は散歩に出掛け気分転換を図る等、個々に寄り添い援助している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて、出身、仕事、好きな食べ物、嫌いな食べ物や介護保険を申請したきっかけなど聞き取りを行い、情報の共有化を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送りを行いご本人様の状態など報告しその時に応じた対応を検討した上で、職員が共有し対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアー会議を定期的開催し、本人様を始め関係者からの意見などを徴収したうえで介護計画に反映できるようにしている。	介護計画は3か月毎に見直し、利用者や家族の意向、日々の生活状況を反映した内容となっている。身体の変化があれば医師や看護師等に相談し、フロアー会議で検討し、現状に即した介護計画を提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には個々の介護計画が分かる様にファイルに添付しそれに沿っての記録などを行う事で職員間でしっかり理解し、実践や介護計画の見直しなどが行えるように考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎などのサービスについてもご本人様やご家族様に応じて対応させて頂いている。出来るだけ希望に沿えるよう柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会や地域交流会に民生委員の方々やご家族様に参加いただく事で地域の情報などを提供して頂いて日々の支援に生かせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時に個々の経過や今後の対応などについて話し合いを行っている。その際には必ずご本人様やご家族様の異常も伝える様に努めている。	入所時に協力医へ移行し、2週間毎の定期受診の他、24時間電話相談でき緊急時に備えてる。元々のかかりつけ医への受診も可能であり、必要に応じ通院支援も行っている。医療機関や家族への情報交換等の連携体制を整え、協働関係が築かれている。週一回の訪問歯科も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診の他にも常時、病状の変化や何かあった場合は看護師に相談などし指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には今後の方向性や生活面での注意点など確認している。入院時の情報については必ず在宅医や看護師にも報告し連携が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に重度化対応指針として説明し同意を得ている。「最期までおねがいます」というご家族様の意見が多い。看取りに関する職員研修に関しては今後実施する予定。現在のところ、提携病院が経営する施設との連携で対応を行っている。	開設一年で看取りケアは無いが、看取りの希望があれば協力医との連携体制を整え、職員の勉強会等をして看取り支援に備えている。協力医への入院体制もあり、重度化や急変時の対応も万全である。重度化ごとに家族、主治医と話し合いを持ち、支援の方向性を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には普通応急の資格を積極的に取得させている。定期的に施設内での研修も行っており、年2回の避難訓練の際には必ず救急対応も実施して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施し地域の方々も高齢者施設であるという認識、理解をして頂いている。避難場所などの確認も行っており職員に周知している。	消防署に災害時の避難場所やホーム内の避難経路を相談する等、協働関係を築いている。年2回の防災訓練を実施し、マニュアルの整備や会議等で職員間で話し合い、防災意識を高めている。水や食料の備蓄も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー・接遇は法人の理念でもあり徹底した指導を行っている。出来るだけご本人様の意見や言葉を尊重し支援にあたるように心がけている。	職員は、利用者の生活歴や性格を把握し、個人に合わせた接し方を心掛けている。人格を尊重し、一人ひとりに心地よく丁寧に対応する様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にしっかり向き合って会話を行うように指導しており、会話が困難な方については、ご本人様が選択が出来る様な話し方をする様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などある程度の1日の流れは予定としているが、その時のご本人様の体調や気分、意向を聞き臨機応変に支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に1回理美容にも来て頂き、整容の管理を行っている。今後は洋服販売などの計画を行う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担が自然に決まっており、調理をされる方や片づけ、盛り付けなどもお手伝いして頂いています。また調理師免許を所持する職員により、美味しい料理が食べられます。	食事作りや片づけ等、利用者が役割を持ち分担して行っている。行事食や手作りクッキングのレクリエーションを企画し、利用者の活気や楽しみに繋げている。個人に合わせ刻みの形態を変える等、安全な食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能の低下が見られ食事形態が様々なので、個々に合わせた形態で対応しています。形態が変わってもおいしく食べていただける工夫を常に考えて対応するよう心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。職員が付きっきり状態の確認が出来る様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、夜間は必要に応じてパット交換やポータブルトイレの誘導を行っている。排尿などの間隔を把握する事で、日中のオムツの使用を防ぐように努めている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンに合わせて声掛けしている。個人の排泄サインを見極め、さり気なくトイレ誘導している。フロアー会議で失禁が多い方への支援方法を検討し、紙パンツやパットを活用した事で失禁が減り、トイレでの排泄へと繋げた例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認行う事で早期に対応が出来る様に心がけている。毎日の体操やヨーグルトなどの乳製品、その他食物繊維を摂って頂ける様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	原則週2回程度は入浴をして頂ける様に促している。ご本人様の希望を伺い、入浴時間や曜日などを対応している。	入浴は週2回実施し、入浴の時間はその日の体調や気分に合わせて臨機応変に対応している。入浴時は職員が必ず一人付き添い援助している。26日は風呂の日として入浴剤を使用したり、ゆず湯をしたりと、楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度でご本人様の希望に合わせて休息を取っていただける様にしています。夜間しっかり休んでいただく為に日中出来るだけ活動できるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情は各フロアーに設置し職員がしっかり認識・理解・確認を行い提供できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好みなどをご本人様やご家族から情報収集し、それに応じたレクに繋がるように支援を行っている。施設近隣の喫茶店などへも個々に対応を、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出レクリエーションや個々の希望を伺いながら近隣を散歩したり、近隣の喫茶店や、公園の散策などを行っている。	天気の良い日は鶴舞公園や図書館に出掛ける機会がある。個別に買い物に出掛けたり、家族と連携して外出したりと、希望に添った外出支援を行っている。いちご狩りや初詣、荒子川公園のラベンダー見学等の外出レクを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、財布は個人で持っていていただきません。何かを購入される際にはご家族様に確認をさせていただいた上で施設で立替させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいと希望があれば施設から電話をさせて頂きご本人様に変わせて頂いています。もちろんご本人様宛に連絡があった場合も同様です。年賀状などはレクリエーションなどで作ったりもしており、個人で手紙など書かれる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような装飾を行うように心がけています。	全体に日が差し明るいリビングで、各フロアで過ごしやすくテーブルやソファを配置し、通路も広く生活しやすい空間となっている。季節毎に利用者で作った壁飾りを飾ったり、イベントの写真が飾られ、アットホームな雰囲気作りをしている。掃除は職員と利用者で行い、清潔感のある共用スペースである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にご本人様の席や場所がなんとなく決まっているようで、落ち着かれていると感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、自宅で使われていた家具や写真などを部屋に飾っていただける様にしている。	タンスや椅子等の家具を持ち寄り、自分の作品や写真を飾り、個々に落ち着ける居室となっている。掃除は職員と利用者が協力し合いに行い、空調の温度調節は職員が管理し、衛生的で快適に過ごせる様努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の今出来ることを生かし、環境を整えたり工夫するよう心がけています。そして役割を持ち楽しく生活して頂けるよう日々試行錯誤しながら支援しています		

目標達成計画

作成日：平成 30年 3月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントは作成できているが、その人らしさを把握するための具体的な暮らしや楽しみ等の記録が乏しい。また援助内容についても、もう少し具体的な内容を記載する必要がある。入居後の生活の様子から得た情報をアセスメントシートに追記し、よりその人を知る手立てとして介護計画作成の根拠としていく事が課題である。	今までの生活歴をしっかり理解できるようにすると共に入居後の様子などもしっかり情報として追記していく事で、その人らしい介護計画が作成できるように取り組んでいく。	アセスメント・ケアプラン・モニタリング等の勉強会を開催する。アセスメントの重要性を説明し、今後1年かけてしっかりできる様に指導していく。	12ヶ月
2	4	運営推進会議の記載に統一性が無い。意見や要望の中から、課題を抽出して明確にし、検討した結果を次回に報告する事で、会議に継続性を持たせると共に信頼感に繋げている様にする事が課題である。	議事録の様式や記載方法の統一を図り内容や流れが分かりやすい議事録を作成する。課題を明確にしどのように検討したかなど次回報告を必ず行うようにしていく。	議事録の様式を変更、統一し記載方法について全職員に周知する。課題に関しては迅速に対策を検討し次回、経過などを含めて報告ができる様にしていく	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。